

館長のガラストーク

妖精の森ガラス美術館 館長 畠山 耕造

「ひかりのかたち展 2016年」について

ウランガラスの収蔵品を展示する「ひかりのかたち展 2016年」から、今回は北側展示ケースの作品をご紹介します。

水口智貴の「花器」は、器胎の内側に白のグラデーションを施し、表面に半円形のパーツを溶着したもので、器全体の質感も輪郭線もとても柔らかなものになっています。続く石田彩の「ペルシャ風瑠璃碗」は、正倉院御物の「白瑠璃碗」を模したもので、側面に施された連続する円文がきれいな亀甲文を形作っています。石田さんのもう一つの作品は、模様を彫り込むのではなく立体的に削り出したもので、小品ながら丹念な仕上げが感じ取れます。

「花筆文様花瓶」は妖精の森ガラス美術館工房スタッフ、日浦佑記の作品。少し裾が広がった器を太敵のカットで縦に4分割し、前後2面に花模様を、側面に上から下まで弧の形を繰り返す帯状のカットを彫り込んでいます。光りの当り具合で作品の表情が微妙に変化する、陰影に富んだ作品になっています。

このケースの中で一番目につくのは高さが60cmもある西川慎の「大地の記憶I」です。ガラス粒を石膏型に入れ、加熱して鋳造したこの立体は、紫外線照明のもとで神秘的な蛍光を放ち、物質性を失って異次元に消えていきそうな非現実感を漂わせています。

山田輝雄の「硝子鉢」には全面に深いカットが施されています。底面には絞り染めのような円文が彫り込まれ、側面には周りを削って浮かび上がらせた模様があって、それぞれ立体的な効果をあげています。

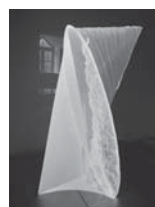
これらの作品はこれまで何度も公開されましたが、全体を紫外線の照明でご覧いただくのは初めてです。展示室全体が、幻想的な緑の蛍光色に満たされています。この機会にぜひご覧ください。



水口智貴「花器」 石田彩「ペルシャ風瑠璃碗」
石田彩「削出高坏」



日浦佑記
「花筆文様花瓶」



西川慎
「大地の記憶I」



山田輝雄
「硝子鉢」

〈展覧会情報〉平成28年度冬期企画展 「ひかりのかたち展2016年」 2017年4月3日(月)まで

お問い合わせ先 妖精の森ガラス美術館 電話(0868)44-7888

鏡野町有線テレビからのお知らせ

●メール容量について

鏡野町有線テレビで提供中のメールサービスは、容量が**10MB**です。メール使用容量が上限に達するとメールが届かない状態となります。画像等を添付したサイズの大きいメールを受信することが多い場合は、メール使用容量のご確認をお願いします。

メール使用容量の確認方法及び上限に達した場合の設定方法は、鏡野町有線テレビのホームページ(<http://www.mto.ne.jp/?p=11>)をご覧ください。

また容量を10MB単位で増やせるオプション(有料)もありますので、鏡野町有線テレビへお問い合わせください。

お問い合わせ先
鏡野町有線テレビ

〒708-0421 鏡野町井坂495
電話(0868)52-2213 FAX(0868)52-9080
受付時間:午前9時~午後5時
(土・日・祝日、夏季休暇、年末年始休暇を除く)

鏡野町有線テレビホームページ
<http://www.mto.ne.jp/>

※鏡野町有線テレビは平成27年4月1日から鏡野光サービス(株)が維持・運営を行っています。

